

2025年3月25日

## 2024年度「障害者スポーツ調査研究報告書」を発行

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)は、2024年度版「障害者スポーツを取巻く社会的環境に関する調査研究」の報告書を発行いたします。

本報告書の内容は当財団ウェブサイトよりご覧いただけます。



<https://www.ymfs.jp/survey/2024-parasports-report/>

### ■報告書タイトル

「障害者スポーツを取巻く社会的環境に関する調査研究」

— 障害者スポーツ選手のキャリア、TV放送、選手認知度に着目して —

### ■報告書の概要(全3章で構成)

#### 【第1章】障害者スポーツ選手のキャリア調査

障害者スポーツ選手のスポーツを始めるに至った経緯や活動状況について、2024年度実施の24名の報告を掲載しています。今回は聴覚障害の選手も調査しました。

#### 【第2章】テレビメディアによる障害者スポーツ情報発信環境調査

パリ2024パラリンピック競技大会の開催中と前後1か月間のテレビ報道量を調査し、過去5大会からの変遷、局別、カテゴリー別、番組内コーナー別の調査結果を報告しています。

#### 【第3章】パラリンピアンに対する社会的認知度調査

パリ2024パラリンピック競技大会開催後のパラリンピアンに対する社会的認知度、大会の視聴状況、観戦後の感想、デフリンピックとアジアパラ競技大会の認知度、日常生活におけるスポーツ環境についての調査結果を報告しています。

### 【執筆責任者コメント】

藤田紀昭 (日本福祉大学大学院 スポーツ科学研究科 教授/当財団障害者スポーツプロジェクト リーダー)

2024年度の「障害者スポーツを取巻く社会的環境に関する調査研究」ができあがりました。本プロジェクトが立上ってから13冊目の報告書となります。

第1章、障害者スポーツ選手のキャリア調査は6年目を迎え、インタビューした選手は100人を数えました。今年は新たに聴覚障害の選手にもお話を伺うことができました。第2章はパリパラリンピックのテレビ報道量の調査結果を記載しています。報道量はロンドン大会時と同程度。リオデジャネイロ大会、東京大会と比較すると少なくなっていました。しかし、パリパラリンピックを全く見なかったという人の割合が大きく増えたわけではないことから、人々の関心は維持されているのではないかと推測されます。第3章ではパラリンピアンへの認知度について報告しています。国枝選手引退後、認知度が最も高かったのは車いすテニスの小田凱人選手でした。

ぜひ、関心のある調査の結果をご覧ください、この間の障害者スポーツを取巻く社会的環境の変化をご確認いただき、ご意見ご質問等いただければ幸いです。

この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。(担当:加賀谷)